

報道関係者各位

「ウッドデザイン賞 2026」 株式会社中央住宅・ポラテック株式会社が受賞 「伝統木造技術『振れ隅』を量産型木造住宅へ継承する屋根設計技術」

ポラスグループ
株式会社中央住宅
ポラテック株式会社

ポラスグループの株式会社中央住宅（本社：埼玉県越谷市、代表取締役社長：品川 典久）とポラテック株式会社（本社：埼玉県越谷市、代表取締役：中内 晃次郎）が開発した「伝統木造技術『振れ隅』を量産型木造住宅へ継承する屋根設計技術」が、「ウッドデザイン賞 2026」〈技術・建材分野 ライフスタイルデザイン部門〉を受賞しました。ウッドデザイン賞の受賞は 5 年連続となります。

◆ウッドデザイン賞（主催：一般社団法人日本ウッドデザイン協会）

木の良さや価値を、デザインの力で再構築することを目的として、優れた建築・空間や製品、活動や仕組み、研究等を募集・評価し、表彰する顕彰制度です。ウッドデザイン賞ホームページ：<https://www.wooddesign.jp/>

◆「伝統木造技術『振れ隅』を量産型木造住宅へ継承する屋根設計技術」

日本の伝統木造技術「振れ隅」

「振れ隅（ふれずみ）」とは、屋根の隅木（すみぎ）が通常の 45 度ではなく、異なる角度で納まる日本の伝統木造技術です。しかし、その施工難易度の高さから、現代の量産住宅では採用される機会が少なくなっています。

木造技術「振れ隅」を現代へ

本提案では、この伝統技術を設計ルールとして標準化し、自社開発の設計システムとプレカット技術を組み合わせることで、量産住宅でも再現可能な木造技術として再構築しました。安定した施工品質と現場加工を削減することを実現し、施工時間の短縮や品質の均一化を図ることで、住宅の品質向上や維持管理性の向上につながります。

都市住宅が抱える屋根設計の課題を解決

斜線制限の厳しい都市部では、急勾配屋根と母屋下がりが一般的に採用されます。その結果、南面屋根が縮小し、発電効率等の面で不利な東西面・北面への太陽光パネル設置が増えています。振れ隅により、南面屋根面積を拡大することで、発電効率を向上させることを実現しています。

また、建物高さを抑えることや、地上から太陽光パネルが見えない緩勾配の屋根によって、美しい街並み形成にも寄与しています。



【振れ隅を採用した分譲住宅】

環境負荷低減とカーボンニュートラルに貢献

屋根高さ、屋根体積を削減しながら、南面屋根面積を拡大する合理的な屋根形状を実現しています。設計段階から木材利用を最適化することで、木材や外装材の使用量を抑えるとともに、施工時の資材ロスや現場作業を低減しています。

本件に関するお問い合わせ先

ポラスグループ ポラス株式会社 コミュニケーション部 広報課

TEL: 048-989-9151

ニュースリリース：<https://www.polus.co.jp/news/>